

# 農作業中の熱中症による死亡事故の事例

## ビニールハウス内で作業中、熱中症で死亡(60代男性)

5月某日正午頃、ビニールハウス内で60代男性が心肺停止の状態で見つけられ、その後、病院に搬送されるも死亡が確認されました。当日は晴天で、気温は29度を記録しており、マルチはりを行っていました。農業経験50年のベテランでしたが、亡くなられてしまった事例です。

## 水田畦畔での草刈り作業中、熱中症で死亡(70代男性)

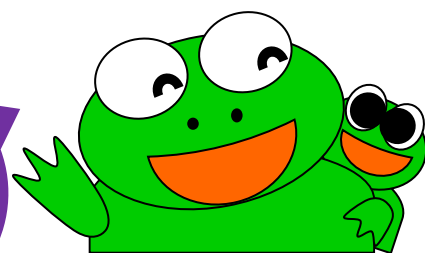
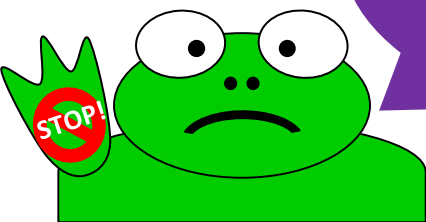
7月某日正午頃、朝から水田畦畔の草刈り中の70代男性が意識不明の状態で見つけられ、その後、搬送先の病院で死亡が確認されました。当日の気温は34.4度を記録しており、発見時、刈払機は手元になく、具合が悪くなり、意識を失ったものと推定されます。

## 畑作業中、熱中症で死亡(90代女性)

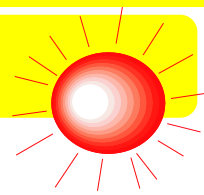
7月某日、90代女性が午後0時過ぎに意識が無い状態で畑に倒れているところを家族が発見し119番通報。その後、近くの病院で死亡が確認されました。午前10時毎には畑で作業している姿が確認されていました。

どうしてこのような事故が起きてしまったのでしょうか。  
次のページから、熱中症の事故を防ぐポイントをご紹介します。

無事に家にカエルまでが農作業！



# 夏の農作業で心がけること

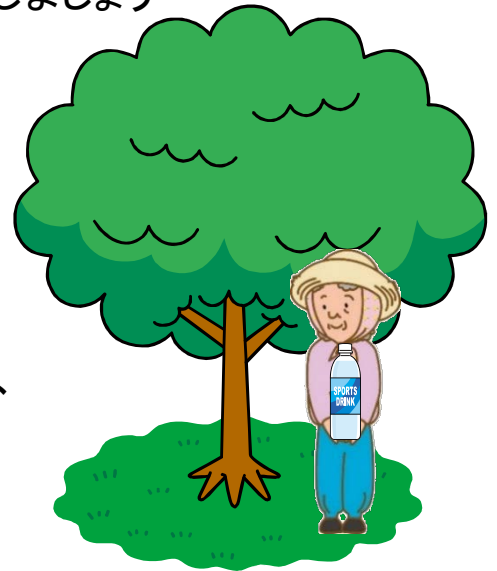


## 1. 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行いましょう

- ☀ 特に70歳以上の方は、のどの渇きや気温の上昇を感じづらくなるので、高温時の作業は極力避けましょう

## 2. 作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩をとりましょう

- ☀ のどが乾いていなくても20分おきに休憩し、毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう
- ☀ 足がつったり、筋肉がピクピクする症状がみられたら、0.1～0.2%程度の食塩水（1Lの水に1～2gの食塩）、スポーツ飲料、塩分補給用タブレットを摂取しましょう  
※市販品を摂取する際は、必ず成分表示をチェックし、適切な量を摂取してください。
- ☀ 休憩時は、日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着を脱ぎ、手足を露出して体温を下げましょう



## 3. 熱中症予防グッズを活用しましょう

- ☀ 屋外では帽子、吸汗速乾性素材の衣服、屋内では送風機やスポットクーラーなどを活用しましょう

## 4. 単独作業を避けましょう

- ☀ 作業は2人以上で行うか、時間を決めて水分・塩分補給の声かけを行うなど、定期的に異常がないか確認し合うようにしましょう

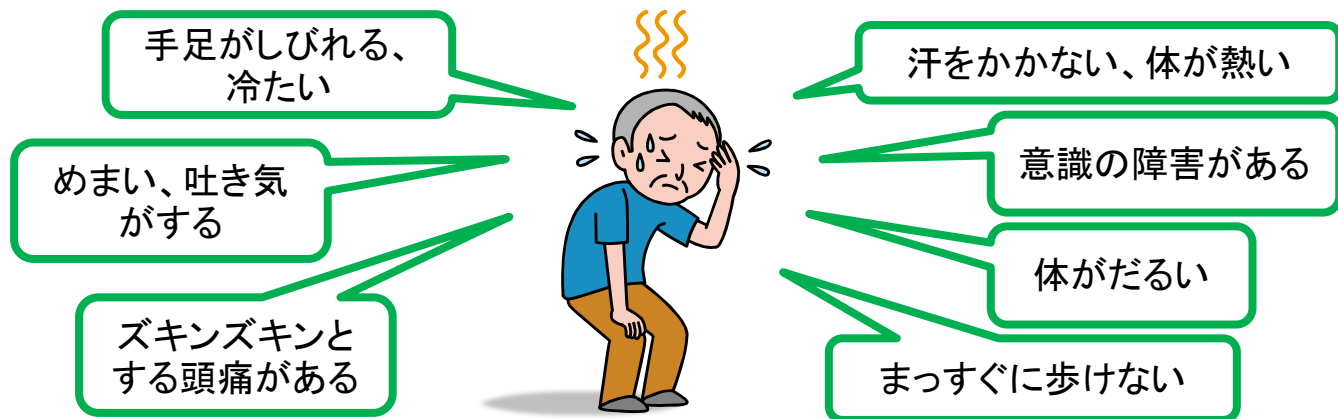
## 5. 高温多湿の環境を避けましょう

- ☀ 暑さ指数(WBGT)計、温度計、湿度計で、作業環境を確認しましょう。
- ☀ 作業場所には、日よけを設ける等できるだけ日陰で作業をするようにしましょう
- ☀ 特にビニールハウス等の施設内は風通しが悪く、早い時期、早い時間から暑さ指数(WBGT)が高くなるため、風通しを良くしたり断熱材を活用しましょう

# 熱中症が疑われる場合の処置

## 1. 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断しましょう

☀ 代表的な症状は以下のとおりですが、熱中症には特徴的な症状がなく、「暑い環境での体調不良」は全て熱中症の可能性がります

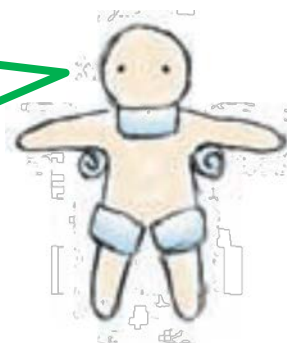


## 2. 応急処置を行きましょう



- ☀ 涼しい環境へ避難しましょう
- ☀ 服をゆるめて風通しをよくしましょう
- ☀ 水をかけたり、扇いだりして体を冷やしましょう
- ☀ 水分・塩分を補給しましょう

脇の下、両側の首筋、足の付け根を冷やすと効果的です



## 3. 病院で手当を受けましょう

☀ 意識がない場合、自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても症状がよくなる場合は、すぐに病院で手当を受けるようにして下さい

